

5. 東大附属校リノベーション<まとめ>

5.1. 改修コンセプト

探究的・協働的な深い学びを通して豊かな市民性を育む、
東大附属コモンズスクール

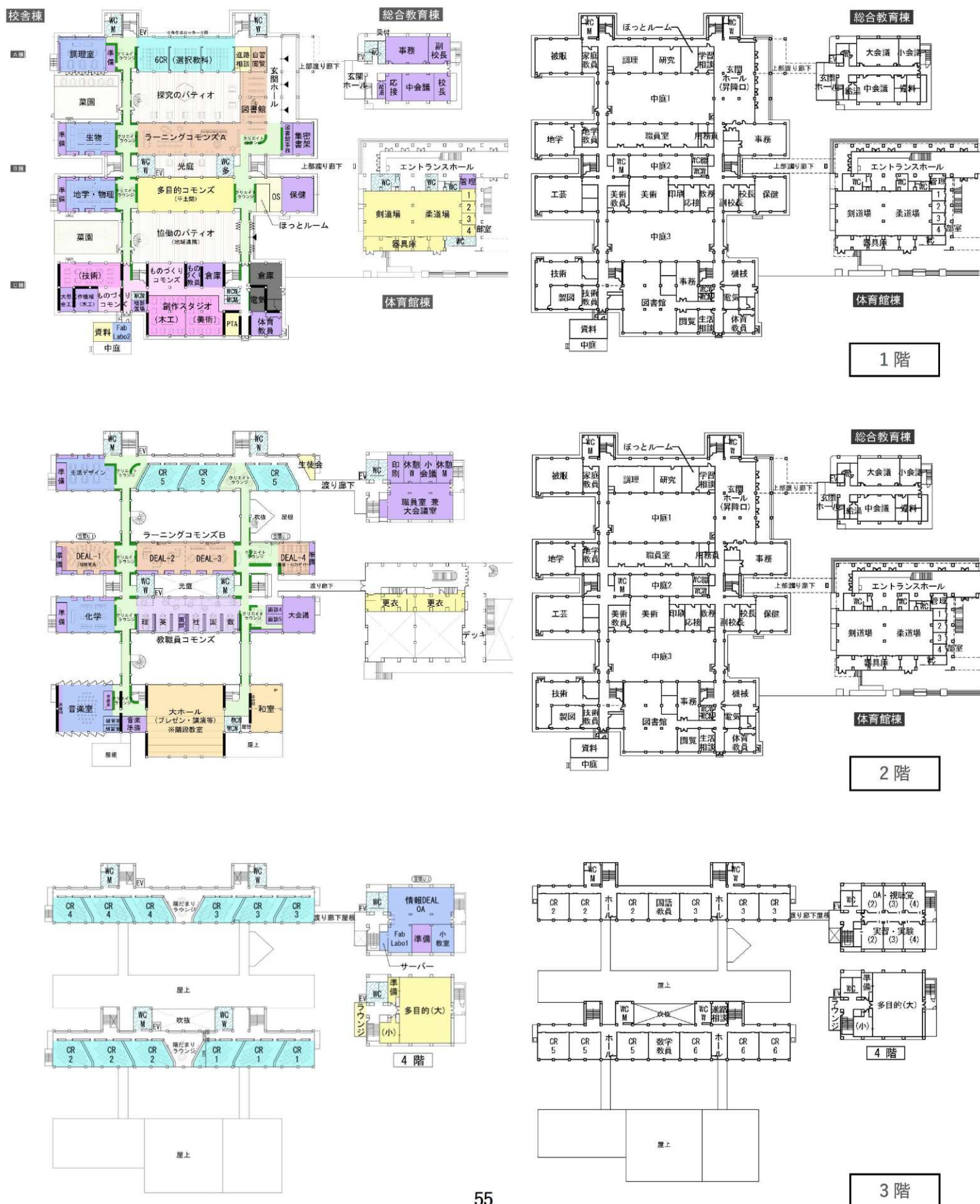
A 学びを深める ～ 「教科学習は文化との出会い」

- ① 高機能の普通教室
- ② 多教科の特別教室
- ③ 興味喚起のできるラボ・回廊
- ④ 「一斉に教える授業」以上の授業展開ができる施設
(メディアセンター、プレゼンホール、ラーニングコモンズ)

B 深めた学びを掛け合わせる ～ 「学びの空間が、学校を変える」

- ① 生徒×生徒 : 教室・様々なコモンズ・クリエイトラウンジ・探求パティオ
- ② 生徒×先生 : ラーニングコモンズ・教職員コモンズ・クリエイトラウンジ
- ③ 先生×先生 : 教職員コモンズ・クリエイトラウンジ
- ④ 学校×地域 : モノづくりコモンズ・プレゼンコモンズ・連携パティオ
- ⑤ 探究×協働 : 探究パティオ、協働パティオ、クリエイトラウンジ

5.2. 改修計画平面図（改修前・改修後）



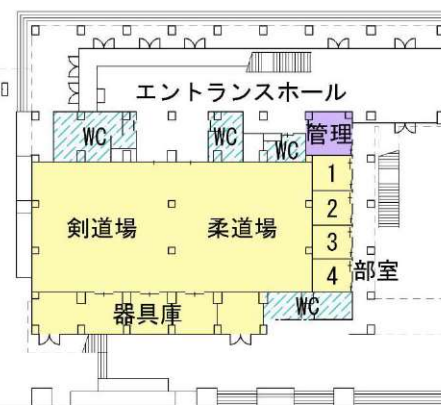
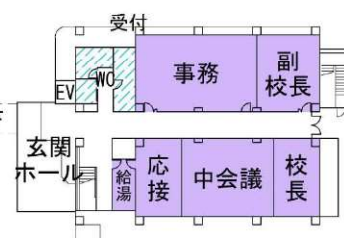
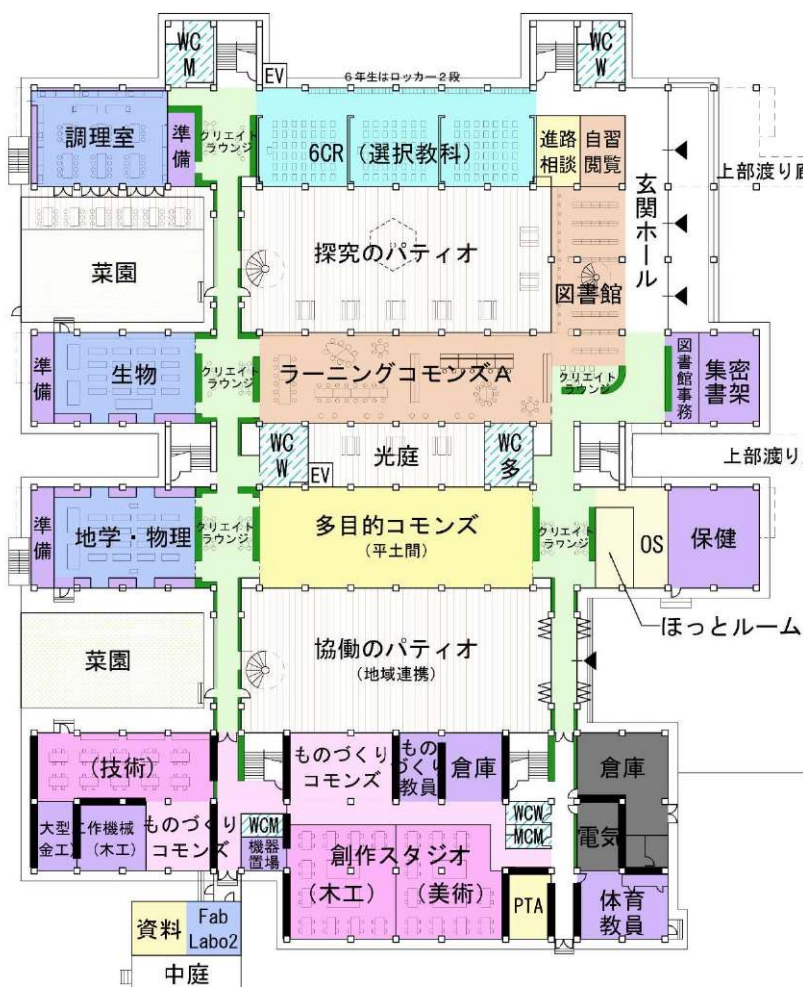
校舎棟

総合教育棟

A棟

B棟

C棟



体育館棟

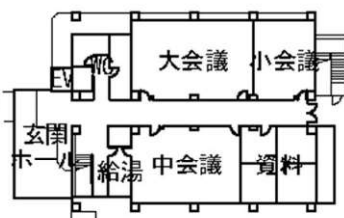
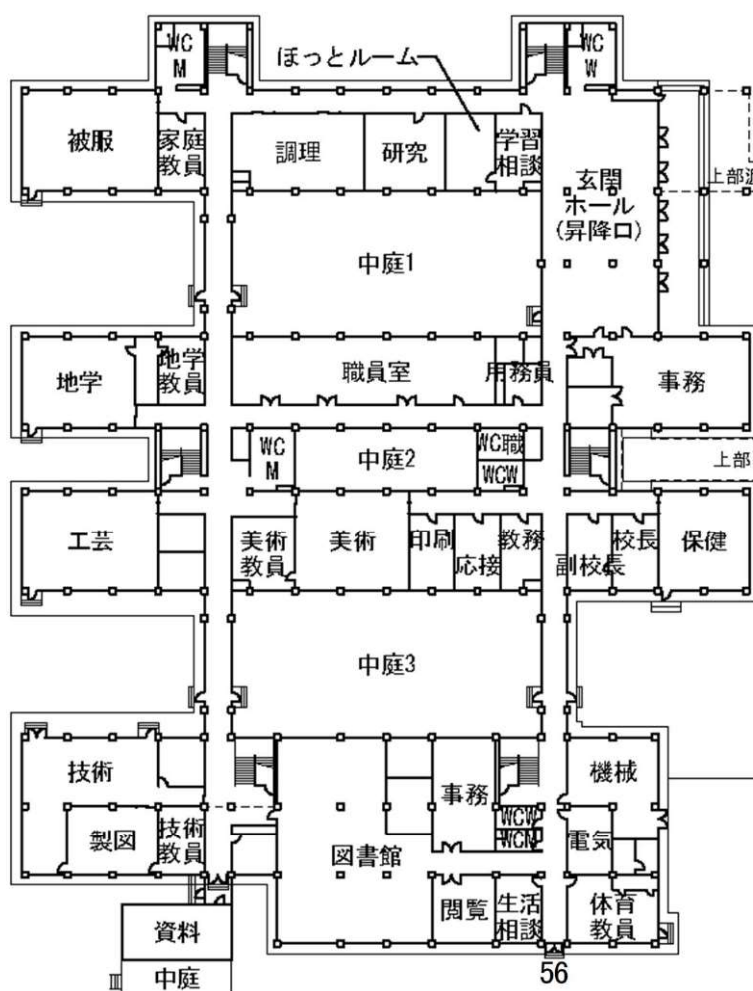
校舎棟

総合教育棟

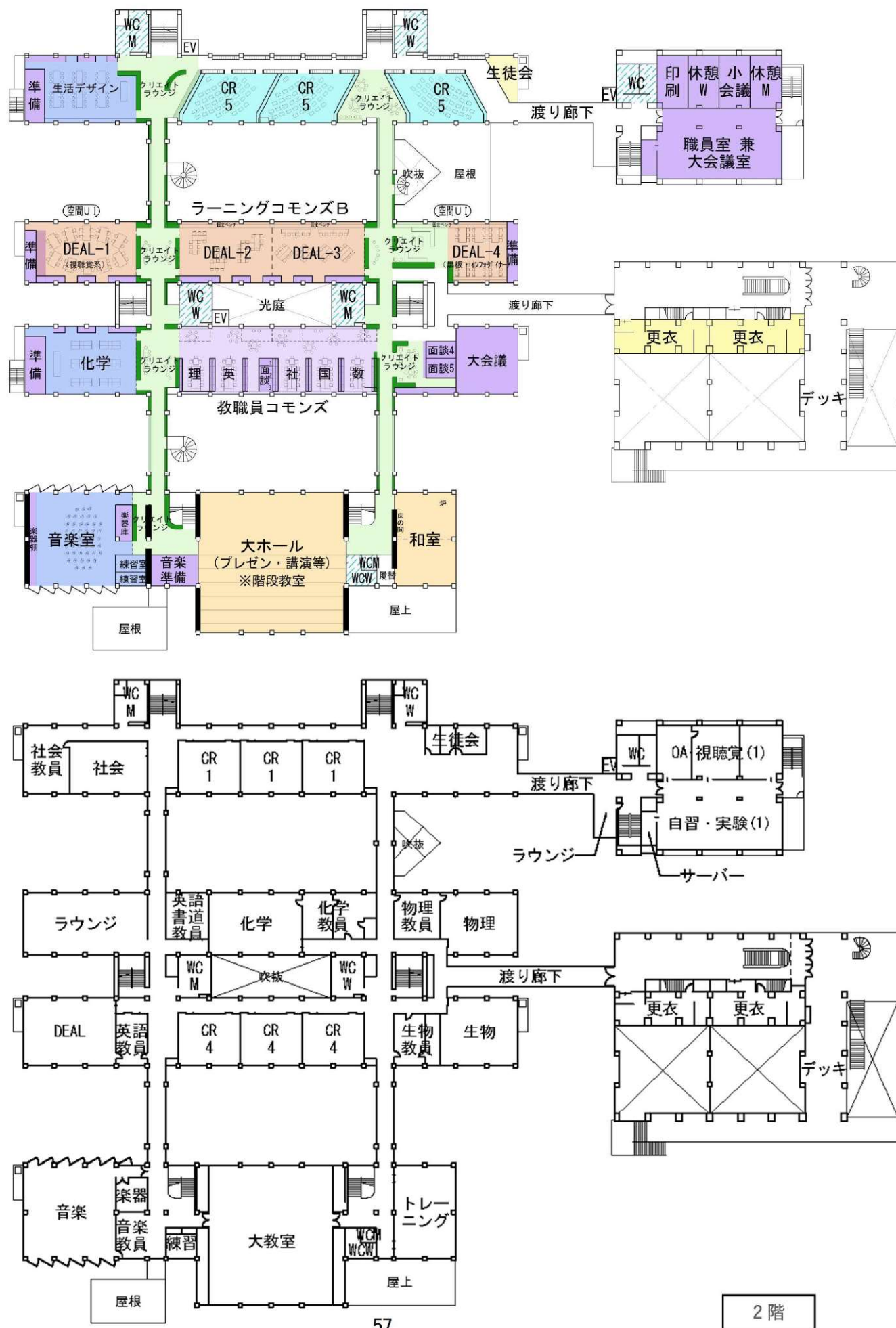
A棟

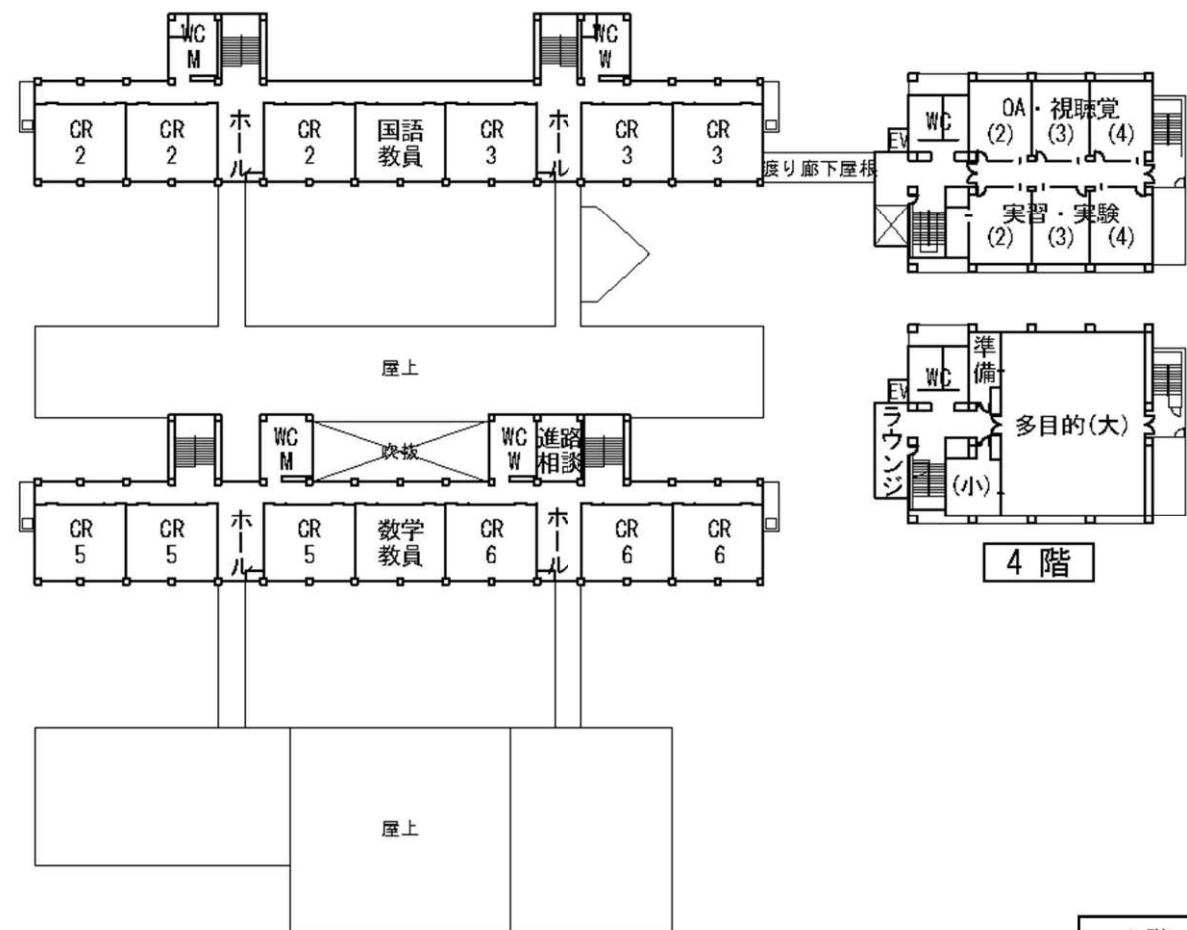
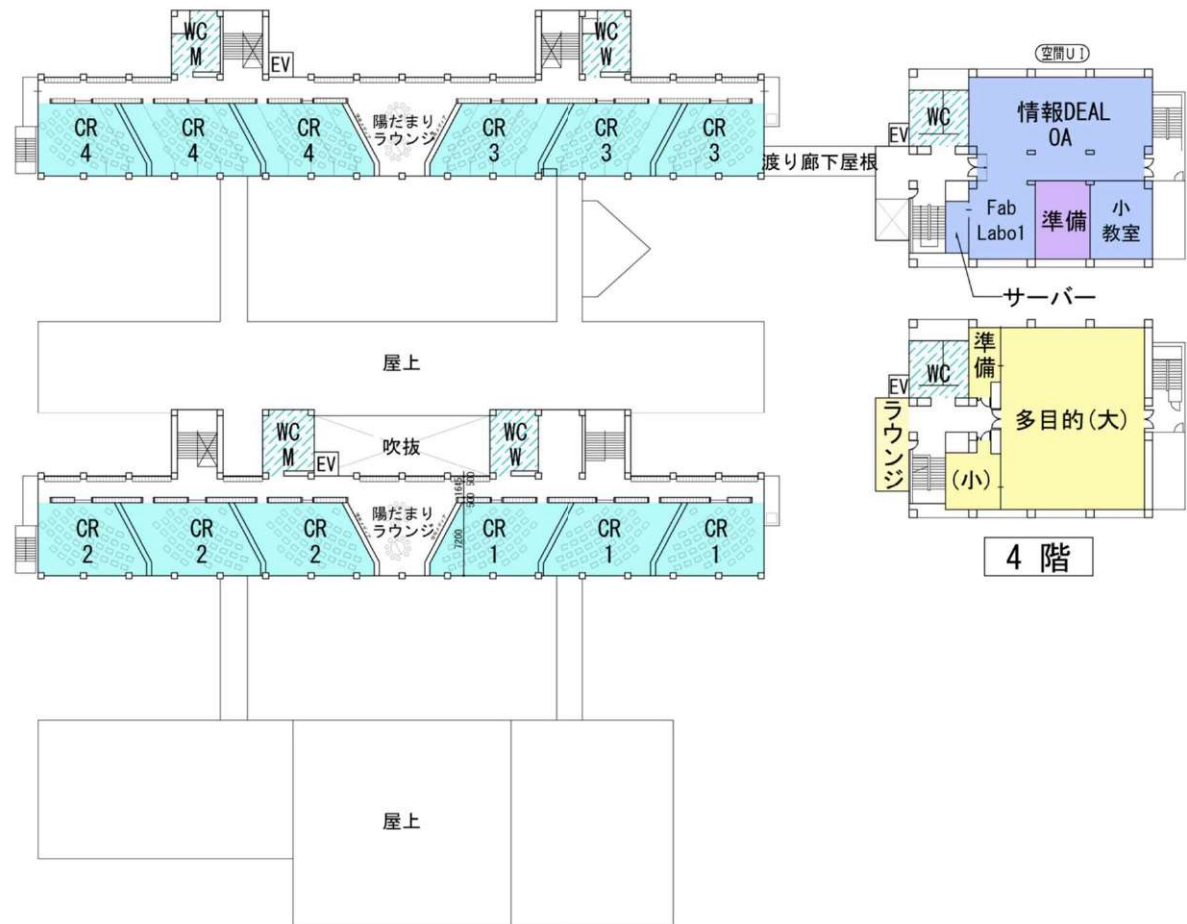
B棟

C棟



体育館棟

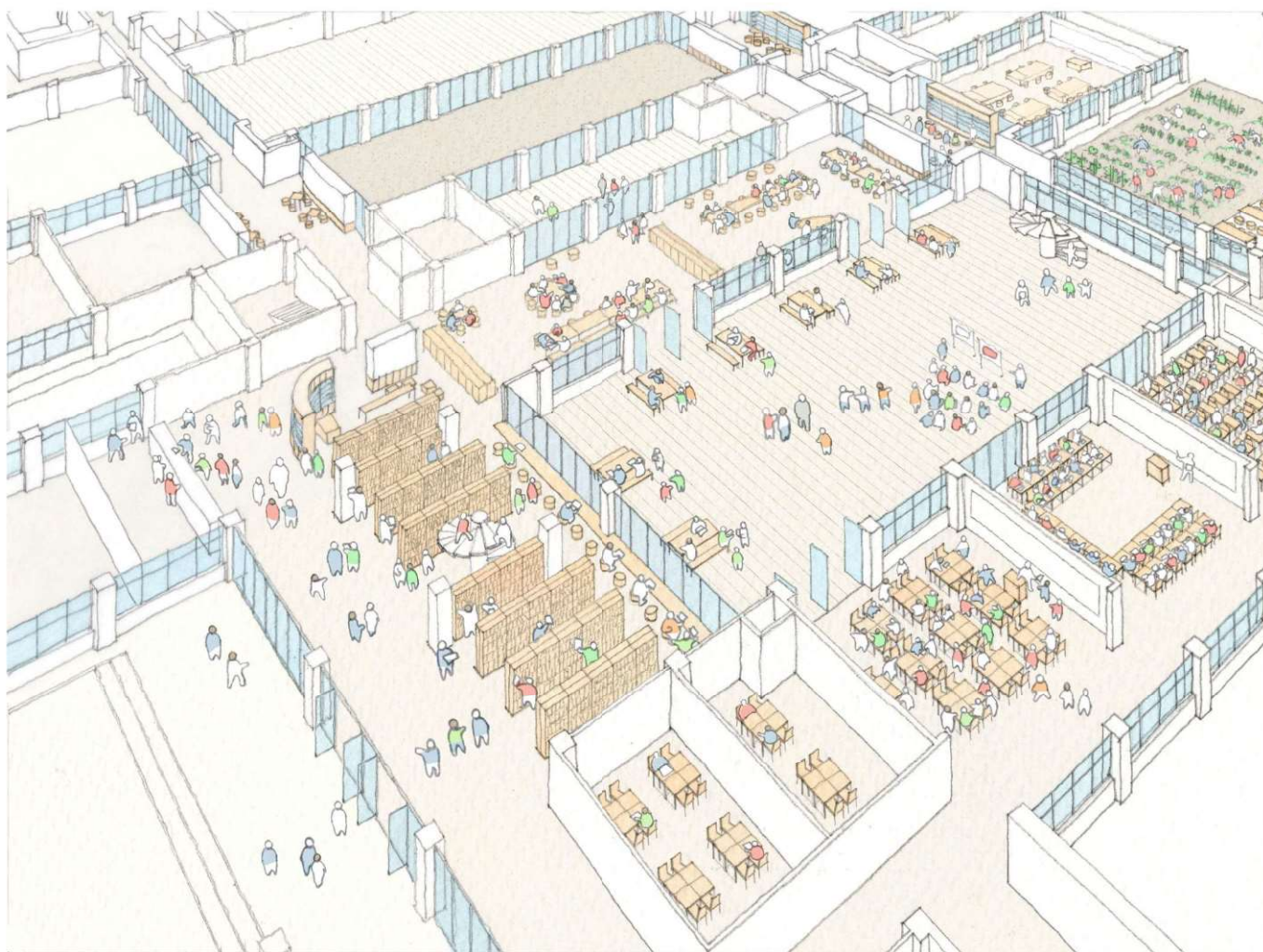




5.3 将来イメージ図

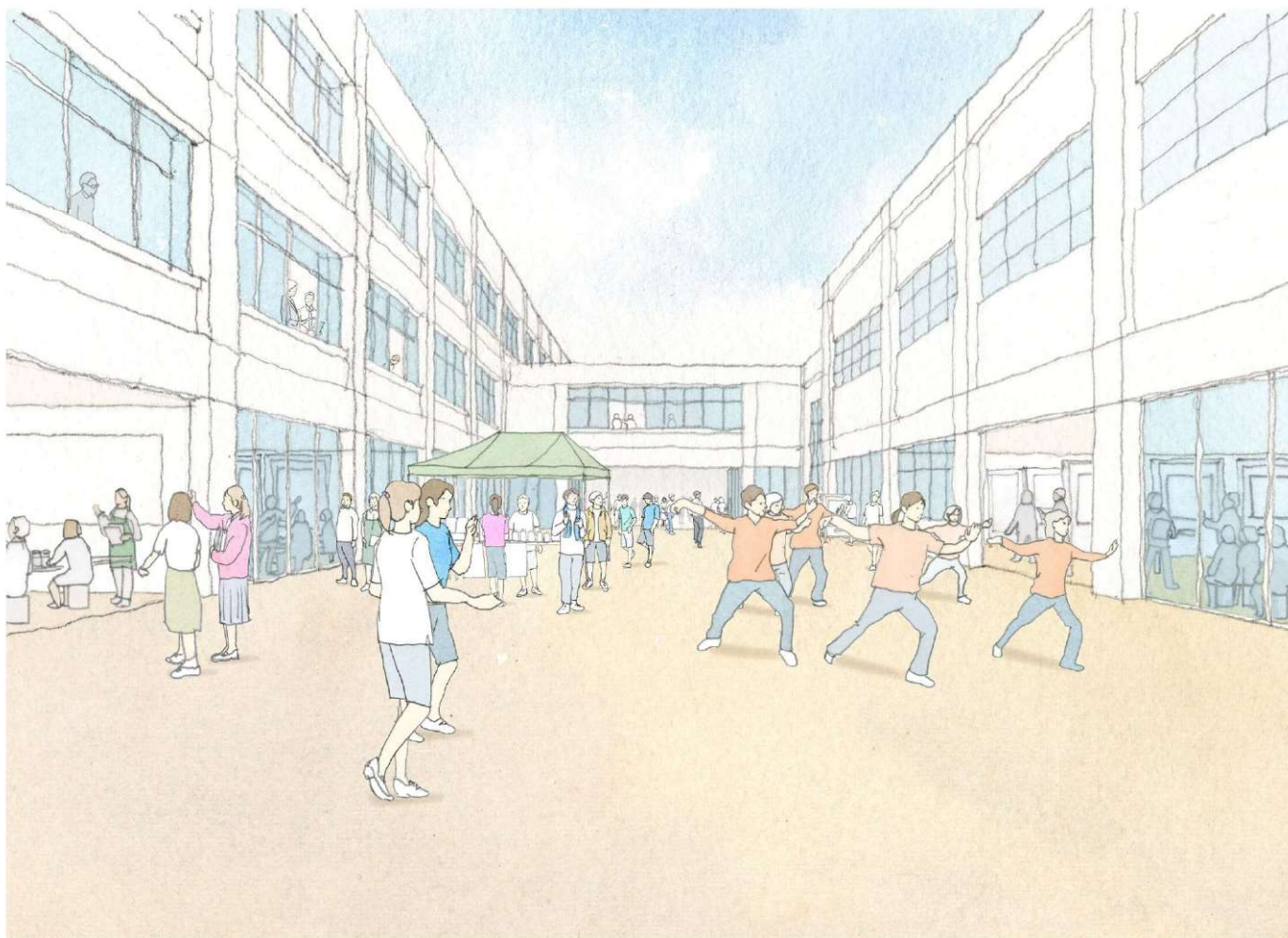
■探求のパティオ

玄関の正面にラーニングcommons A・図書館・パティオが一体となった探究ゾーンを形成。全校生徒の探究学習の中核となると同時に、6年生の拠点と隣接させて、卒業研究の結実に向かう6年生に重要となる探求スペース、サポートスペースを形づくっている。



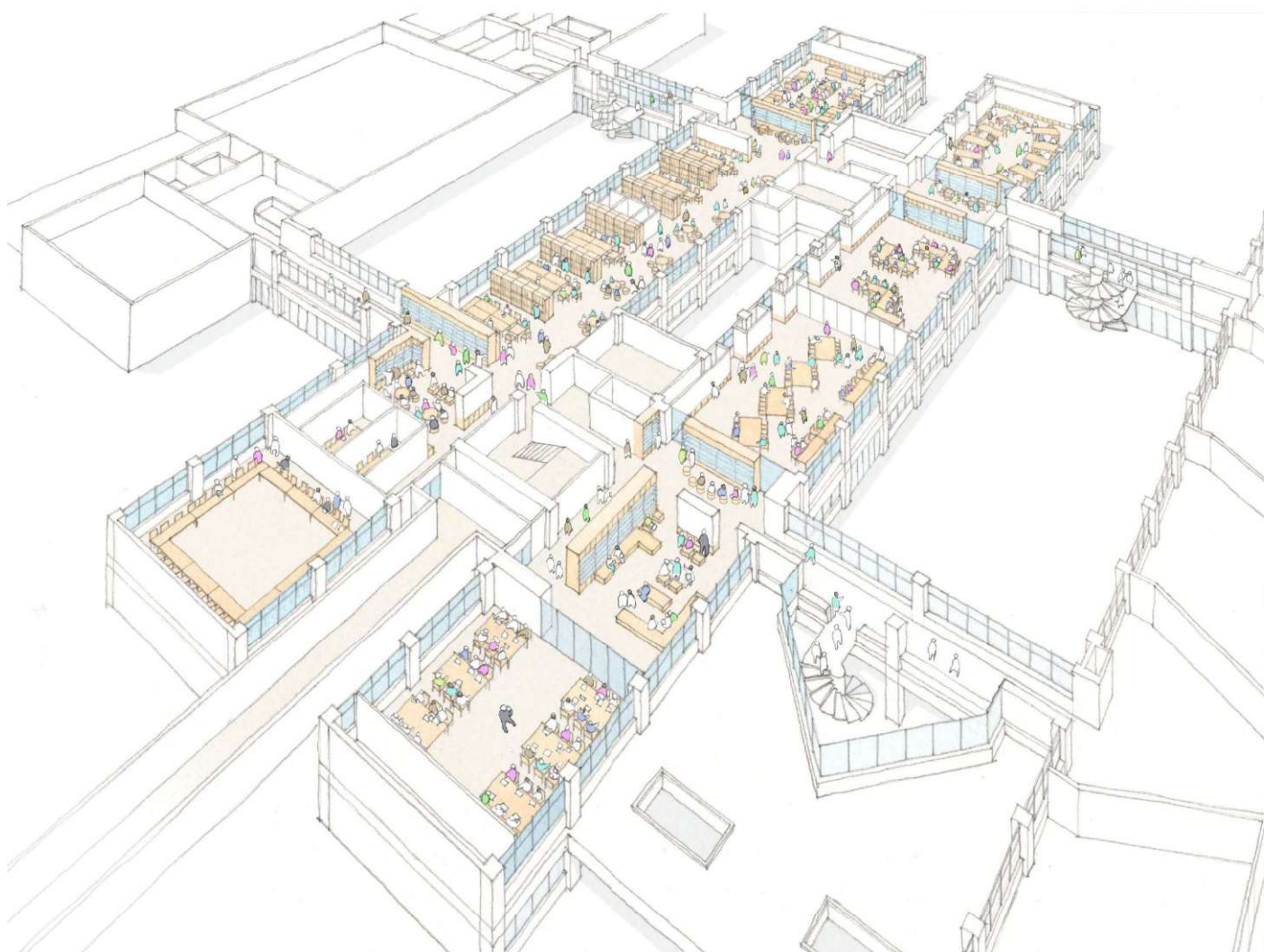
■協働のパティオ

ものづくりコモンズ、多目的コモンズ、プレゼンテーションコモンズ、が隣接する地域開放エリア。外部から直接アクセスできるため、地域開放イベント、ACUTワークショップやセミナー、銀杏祭、などで地域に開かれた多様な活動を支えていく。2階には教職員コモンズがあり、防犯に対しても目の届くスペースとなっている。



■ラーニングcommons B

DEAL + 放課後commonsによる協働的な学びの空間。中央部はリラックス空間を授業にも活用できる新たな学びの空間に。両端部は特徴のある教室装備のDEAL室に。放課後commonsの中央可動間仕切りを開けると、学年集会の行える大広間となる。



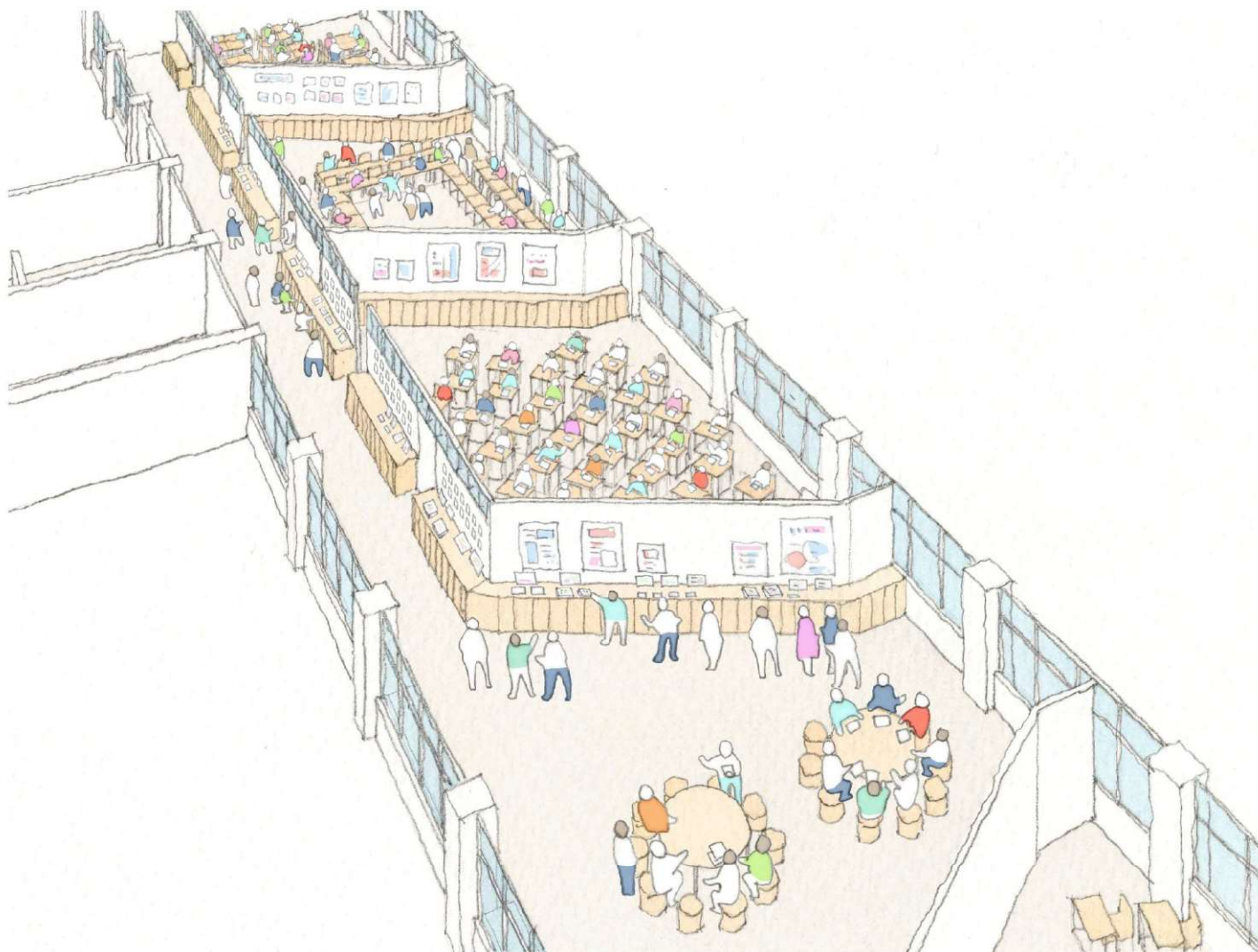
■クリエイトラウンジ

各教科への興味を喚起するラボシェルフ+気軽な会話を促す溜りの空間、による、コミュニケーション的な回遊空間。シースルーのラボシェルフにより特別教室の専門性が廊下にもにじみ出し、その前に設けられたクリエイトラウンジでは専門的だが気軽な会話を誘発している。



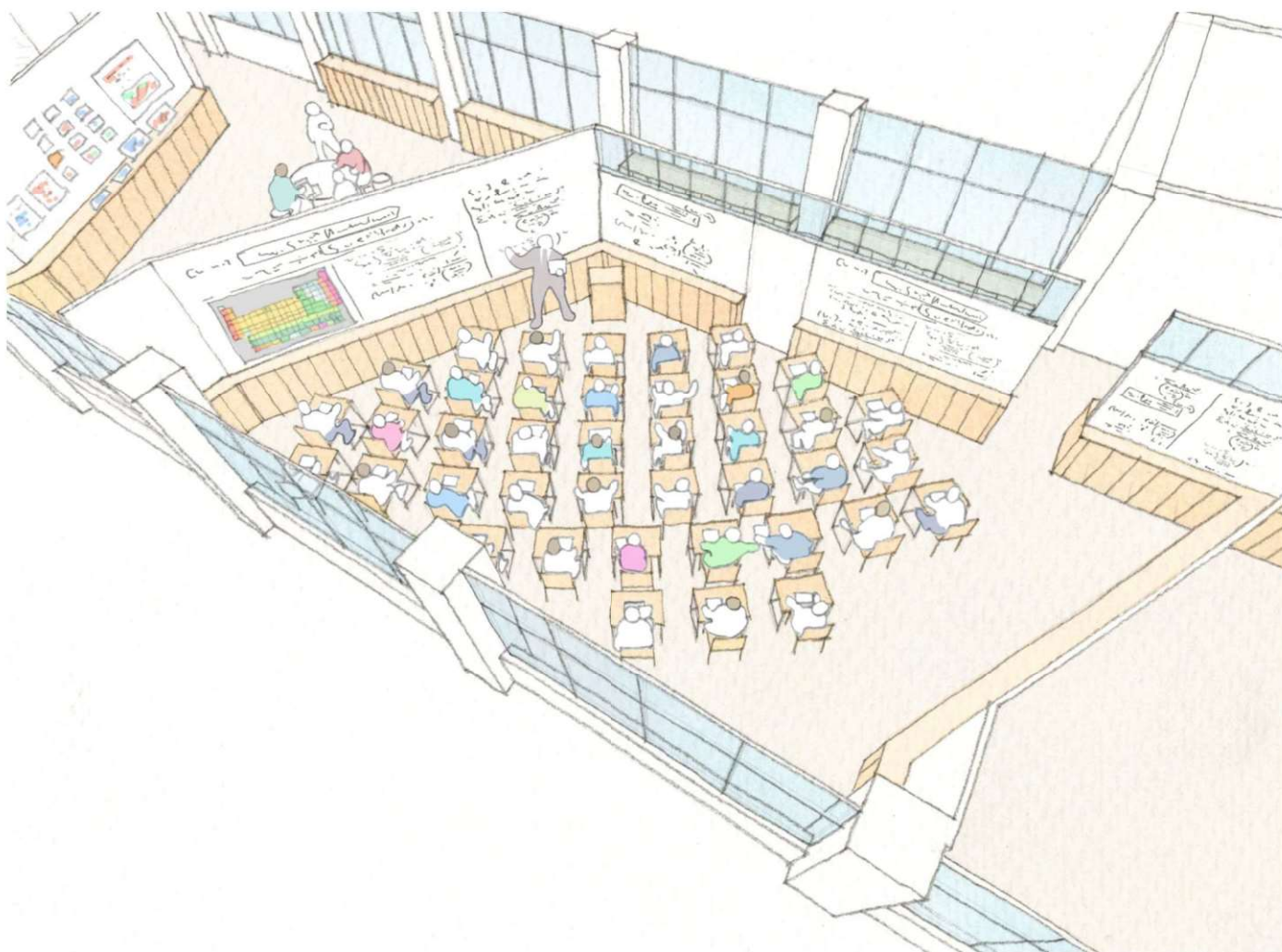
■普通教室ゾーン

廊下側から使う個人ロッカーが拠点となる。ここにはクラスの掲示板があり情報発信するとともに、各学年の教室が集約配置されて学年のまとまりも形成している。中央の陽だまりラウンジはリフレッシュと学年メディアスペースであり、2学年間の交流スペースともなっている。



■ L 型普通教室

豊富な板書面・映写面、多様な机レイアウト、生徒のリフレッシュや交流、を可能にした現代的な授業運営のできる普通教室。



■教職員コモンズ

生徒×教職員だけでなく、教職員×教職員のコミュニケーションも誘発し、円滑な日常教育活動に加え附属の新たなカリキュラム創出も触発する、コミュニケーション的なコモンズ。

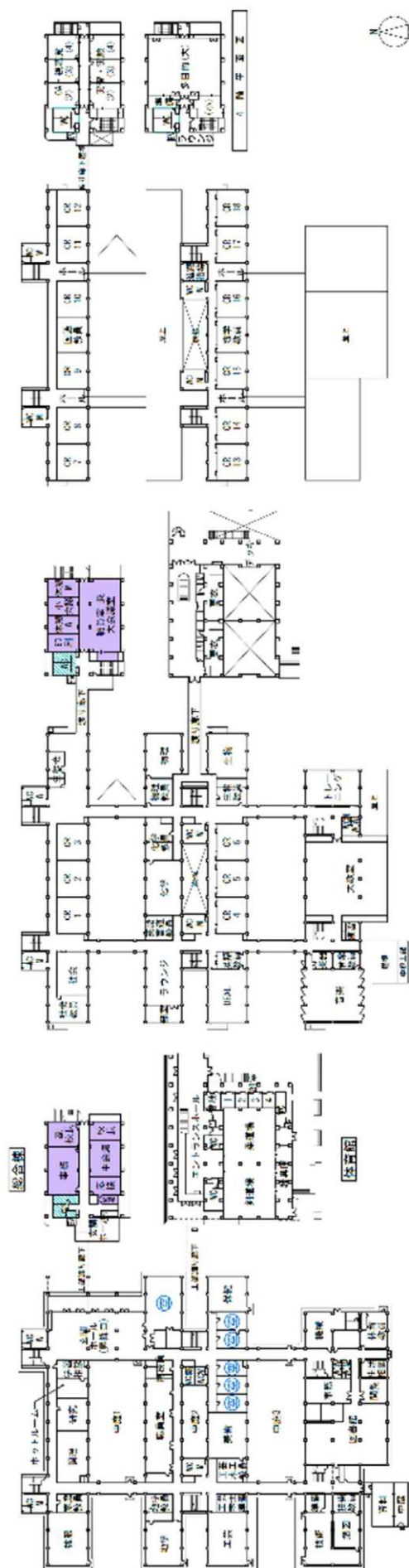
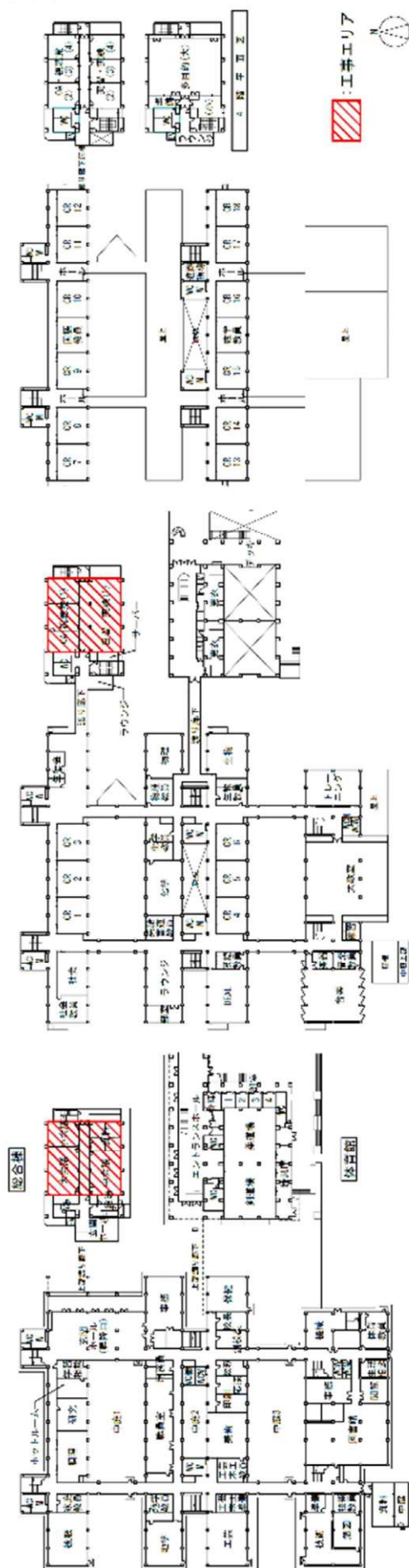


5.4. 工事ローリング計画図

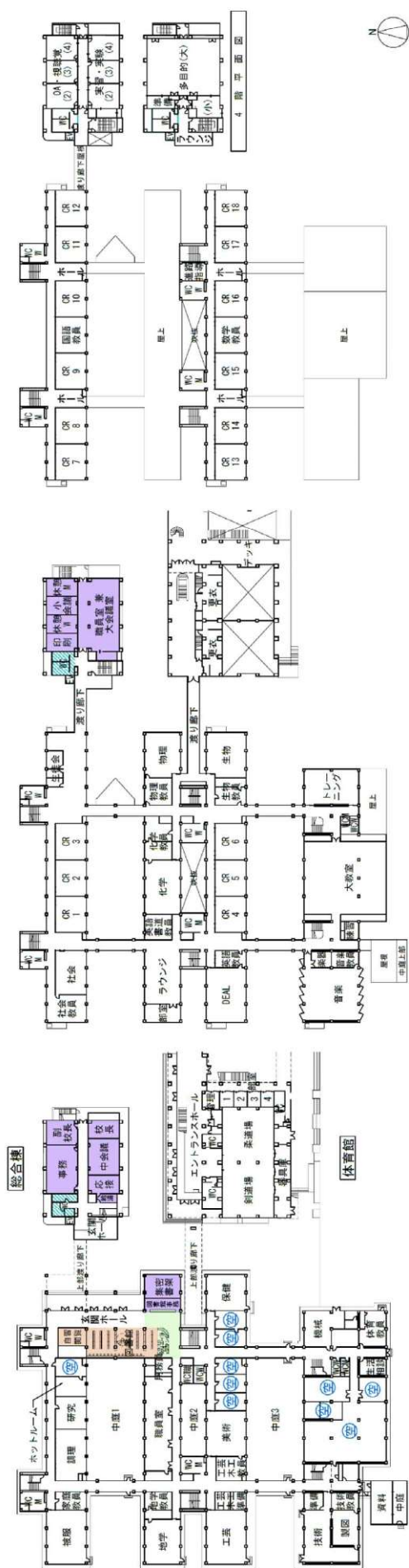
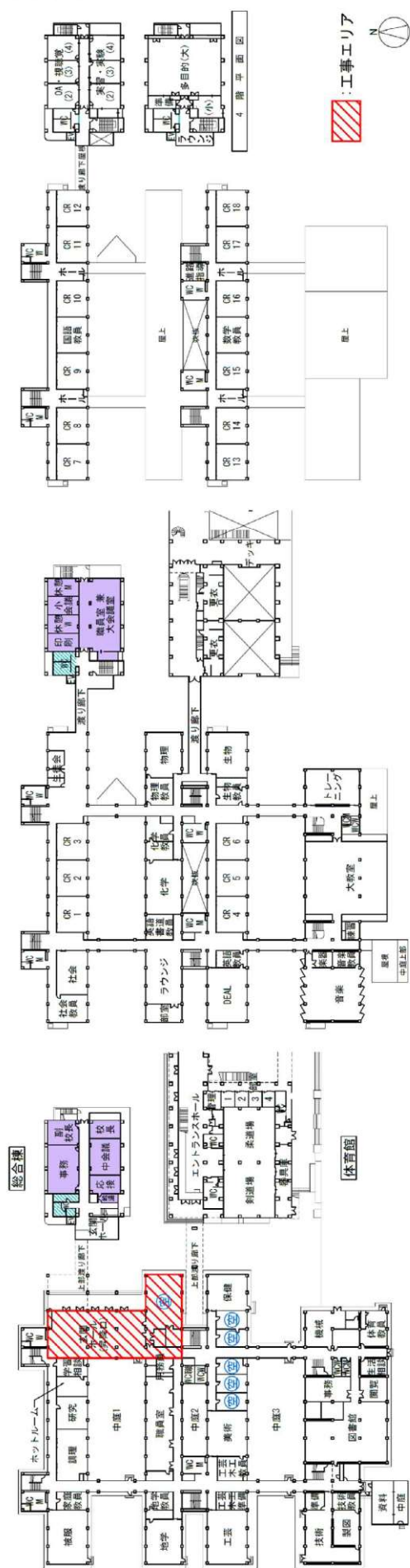
今回のリノベーションは、居ながら工事で、しかも仮設校舎を設けない枠組みで進められることとなっているため、工事中の教育環境（教室数の充足、工事エリア・安全エリアの区分等）に配慮する必要がある。そこで現状プランから最終形に至るまでの、工事のローリング計画を検討した。

各ステップ毎に「当該ステップ工事中」「当該ステップ完成時」を設定し、各々の段階で教室不足とならないよう組み立てた。工事は少なくとも9ステップを必要とする。ただし一部には仮使用的な運用が必要な室があり、夏休みだけでその場工事を行う必要がある場所もある。また、設備やインフラの盛替え詳細は現段階では行うに至っていないため、今後行われる基本設計・実施設計の中での詳細検証が必要である。

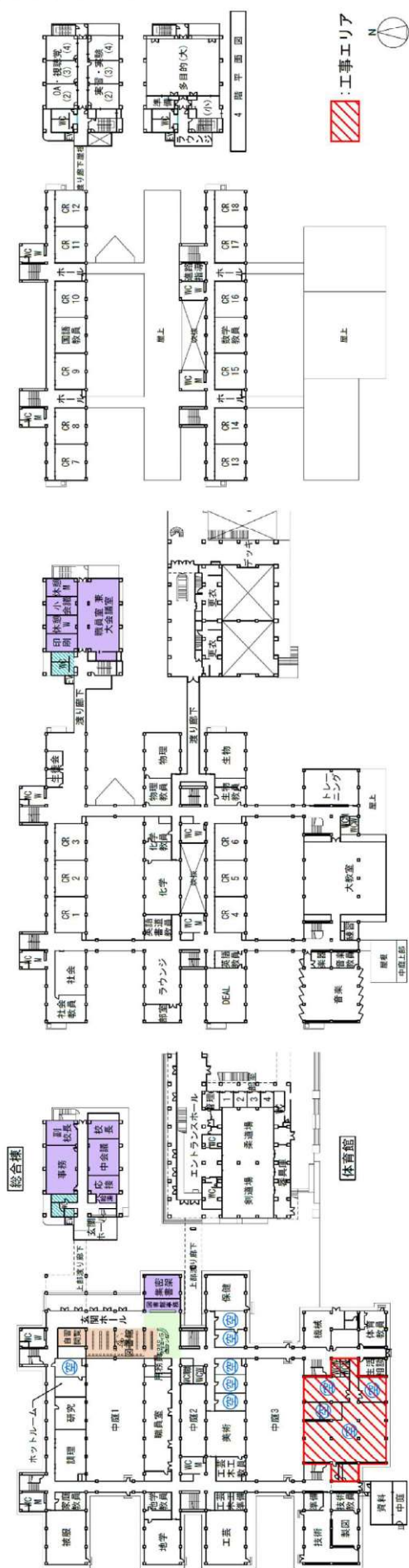
STEP-1



■STEP-2



STEP-3

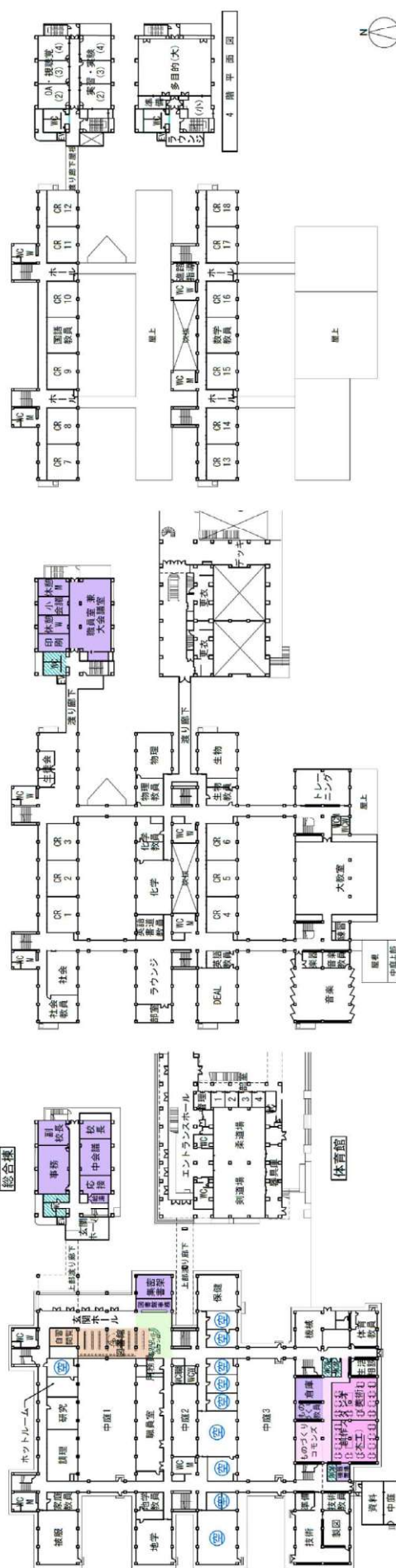


STEP3 工事中

3 階平面図

2 階平面図

1 階平面図



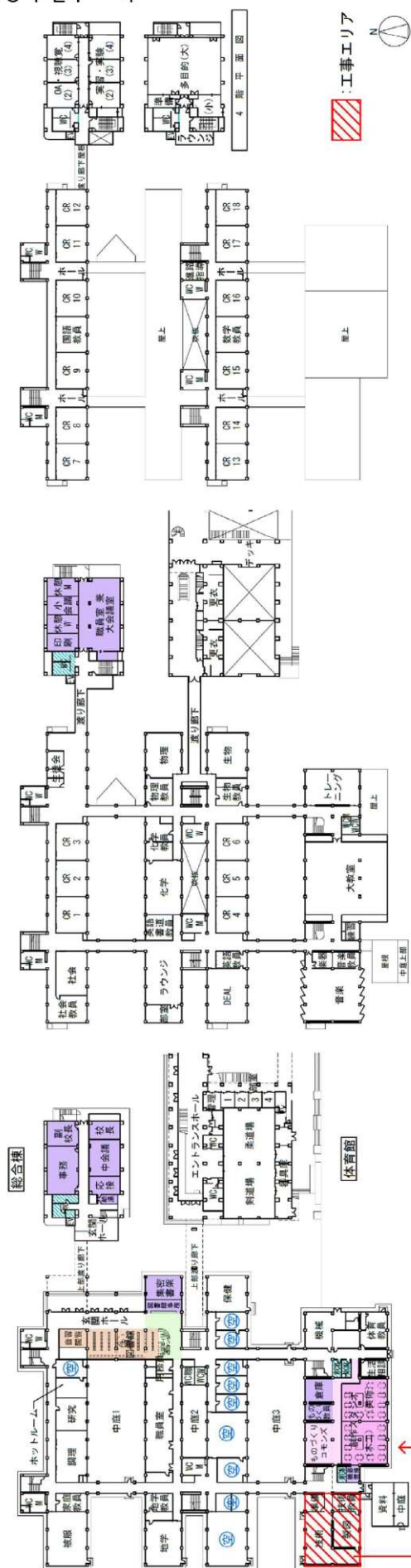
STEP3 完了時

3 階平面図

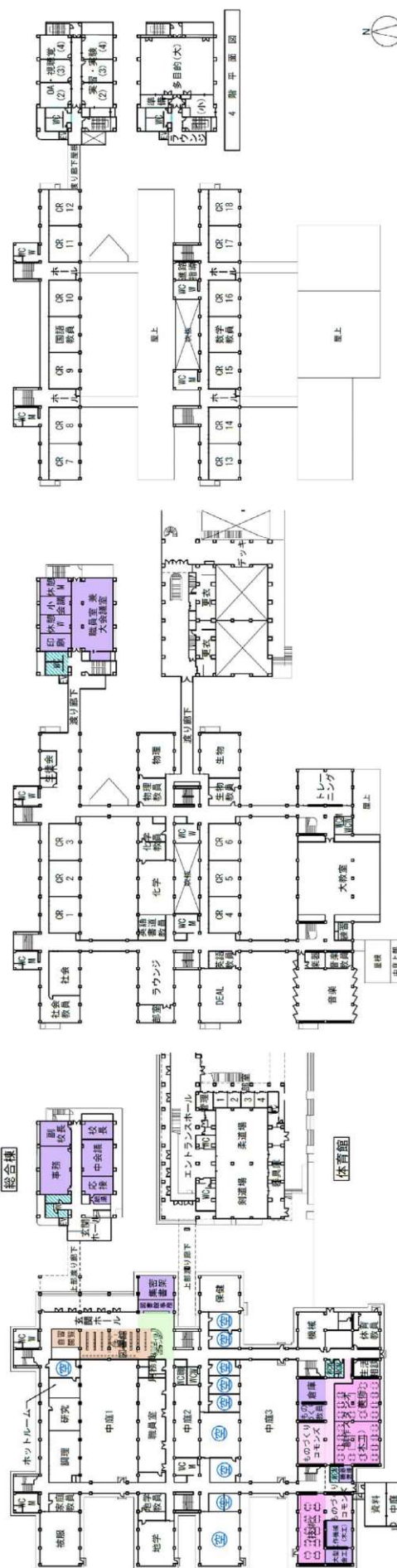
2 階平面図

1 階平面図

■STEP-4

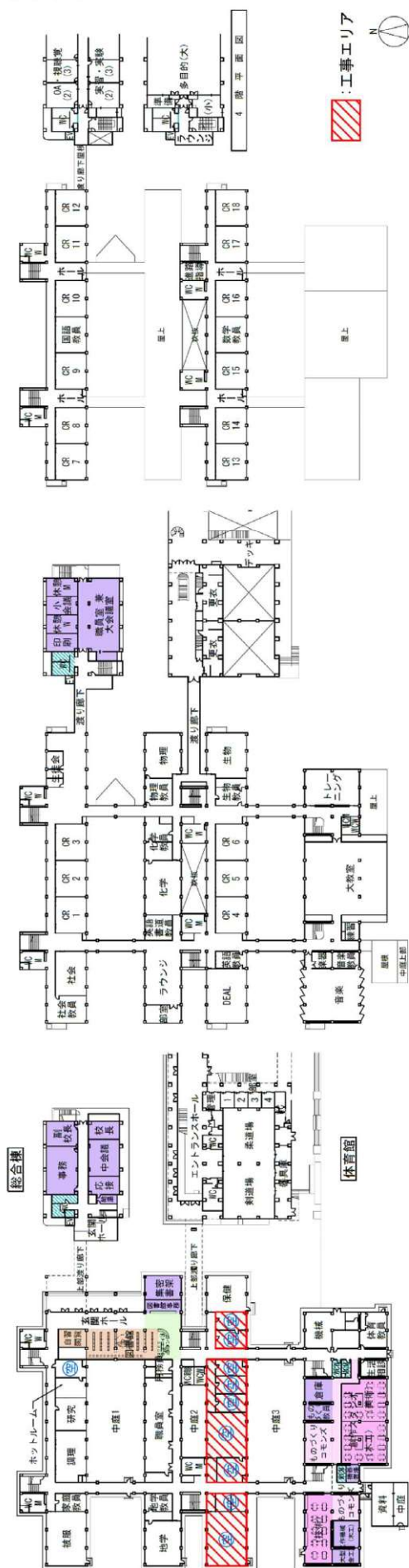


70

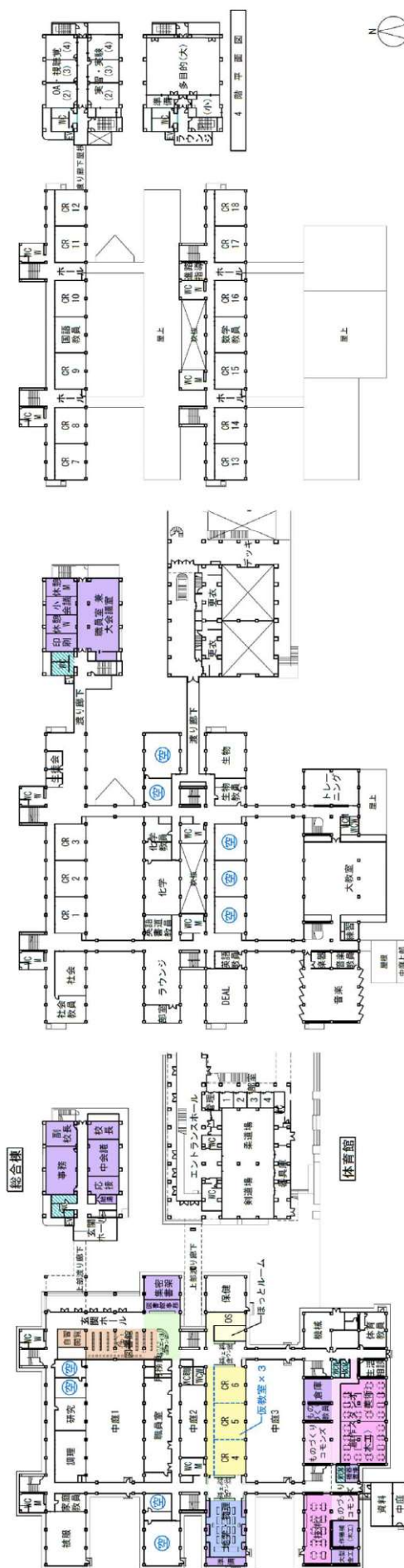


STEP4 完了時

STEP-5

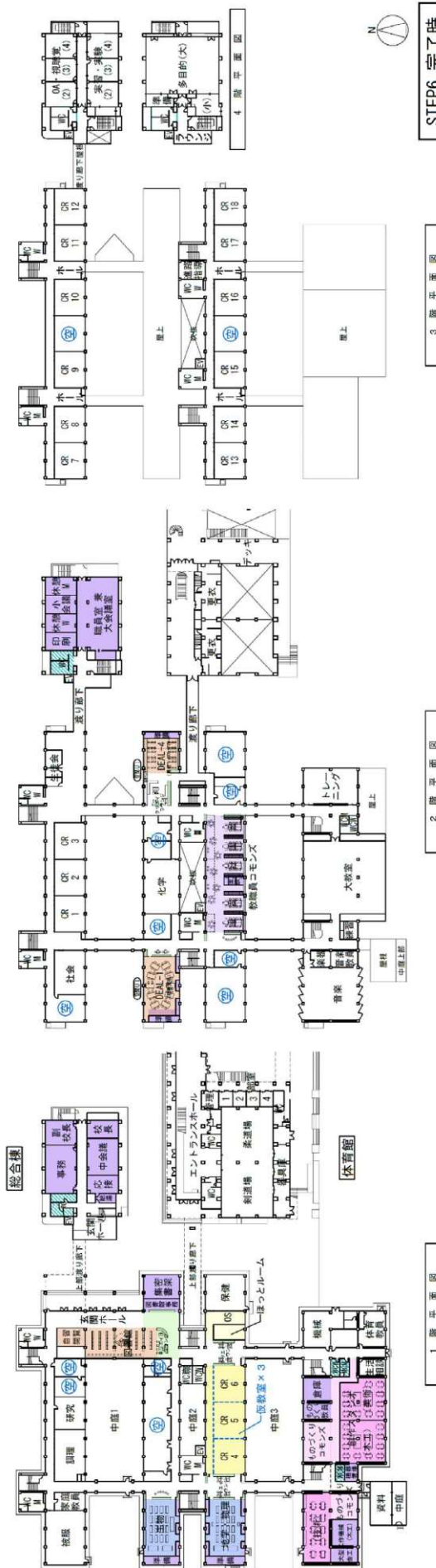
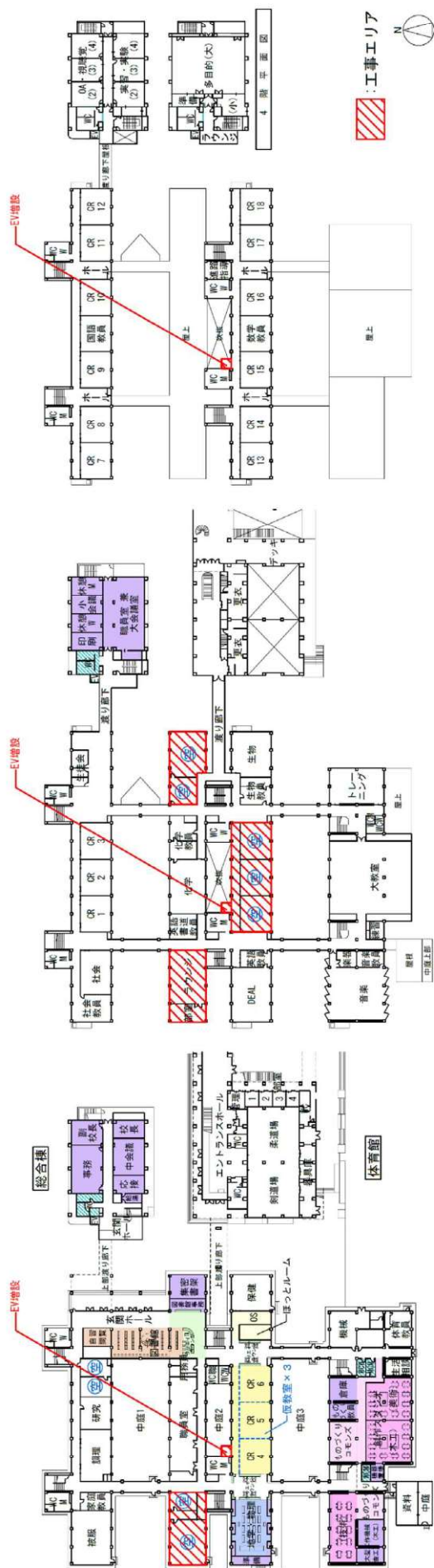


STEP5 工事中

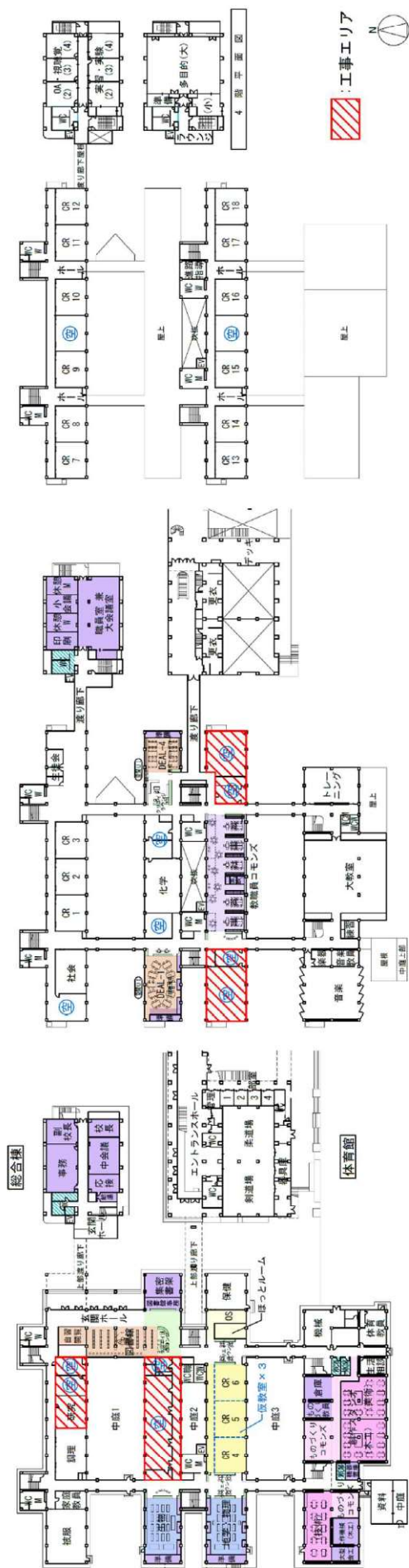


STEP5 完了時

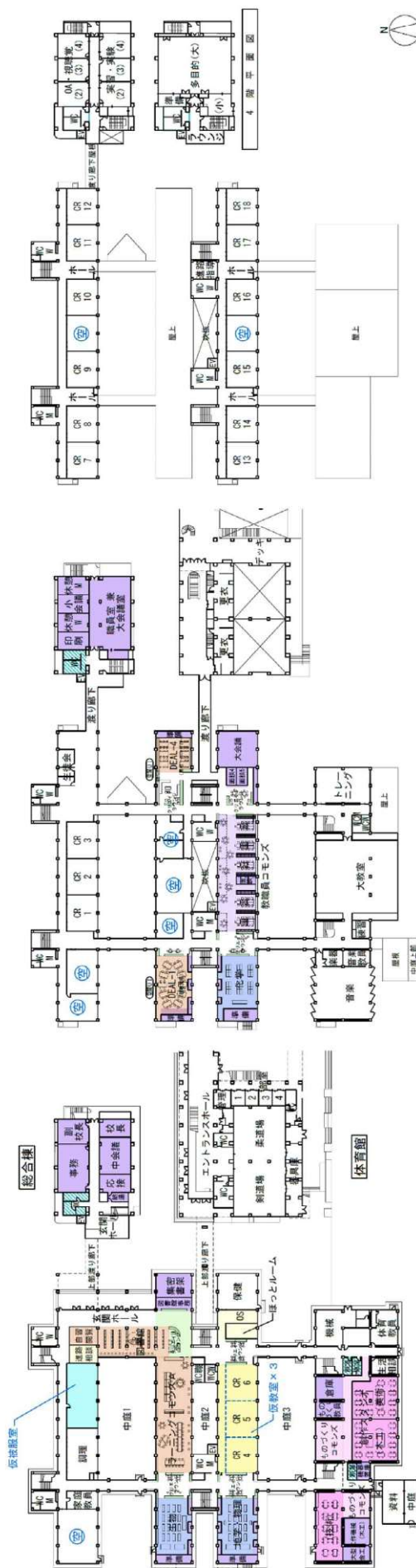
STEP-6



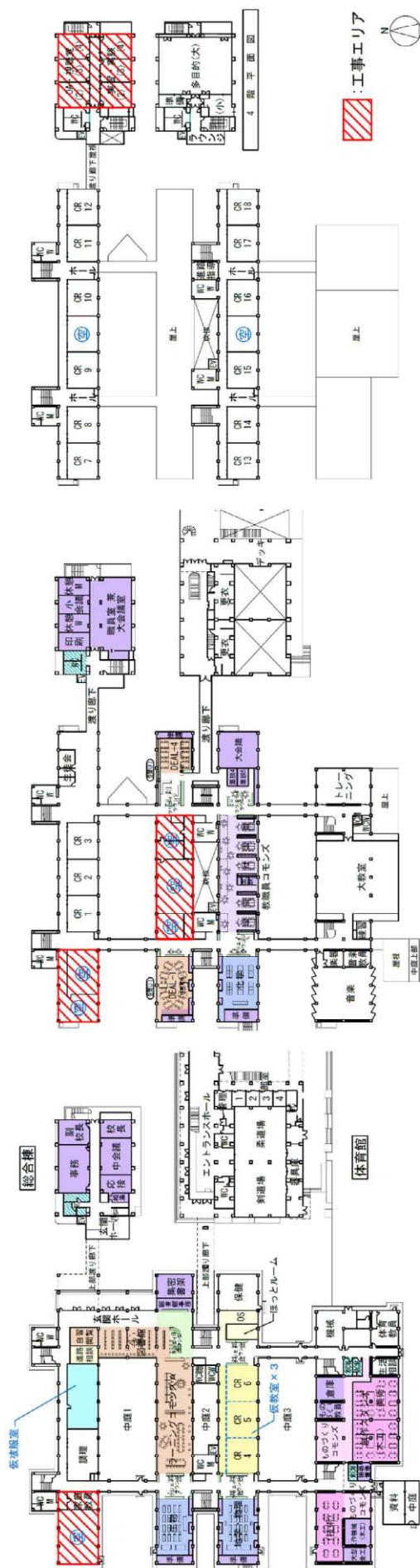
■STEP-7



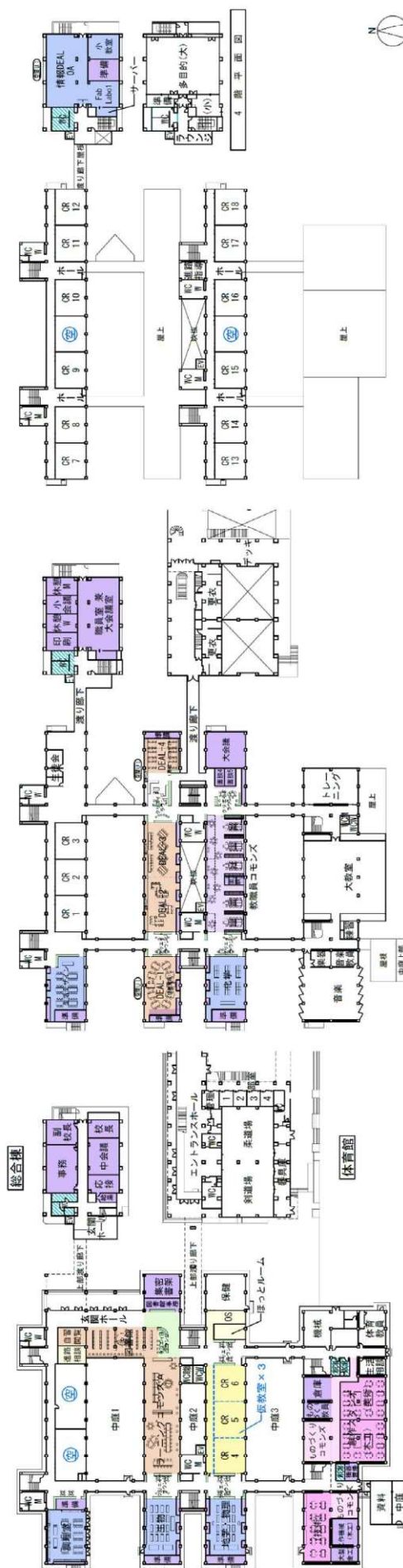
STEP7 工事中



STEP-8

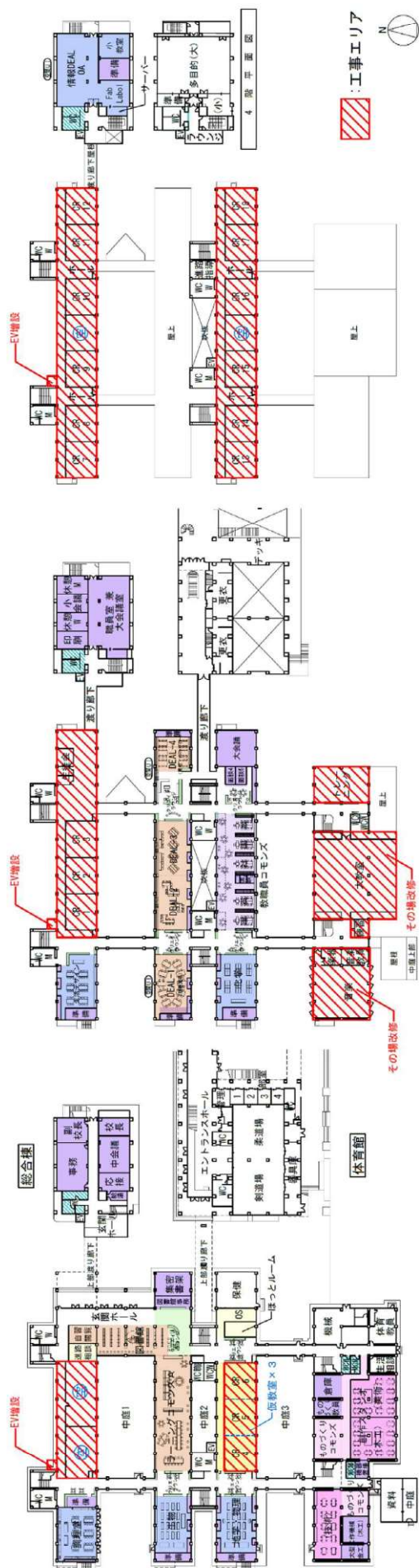


74



STEP-9

夏休みで普通教室をその場改修とする

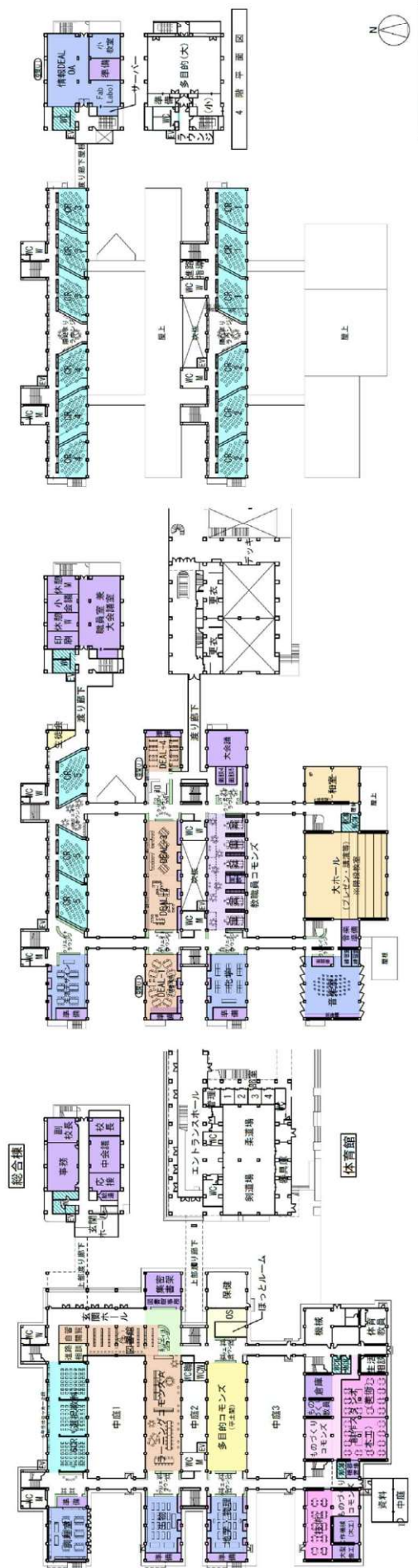


STEP9 工事中

3 階 平面図

2 階 平面図

1 階 平面図



STEP9 完了時

3 階 平面図

2 階 平面図

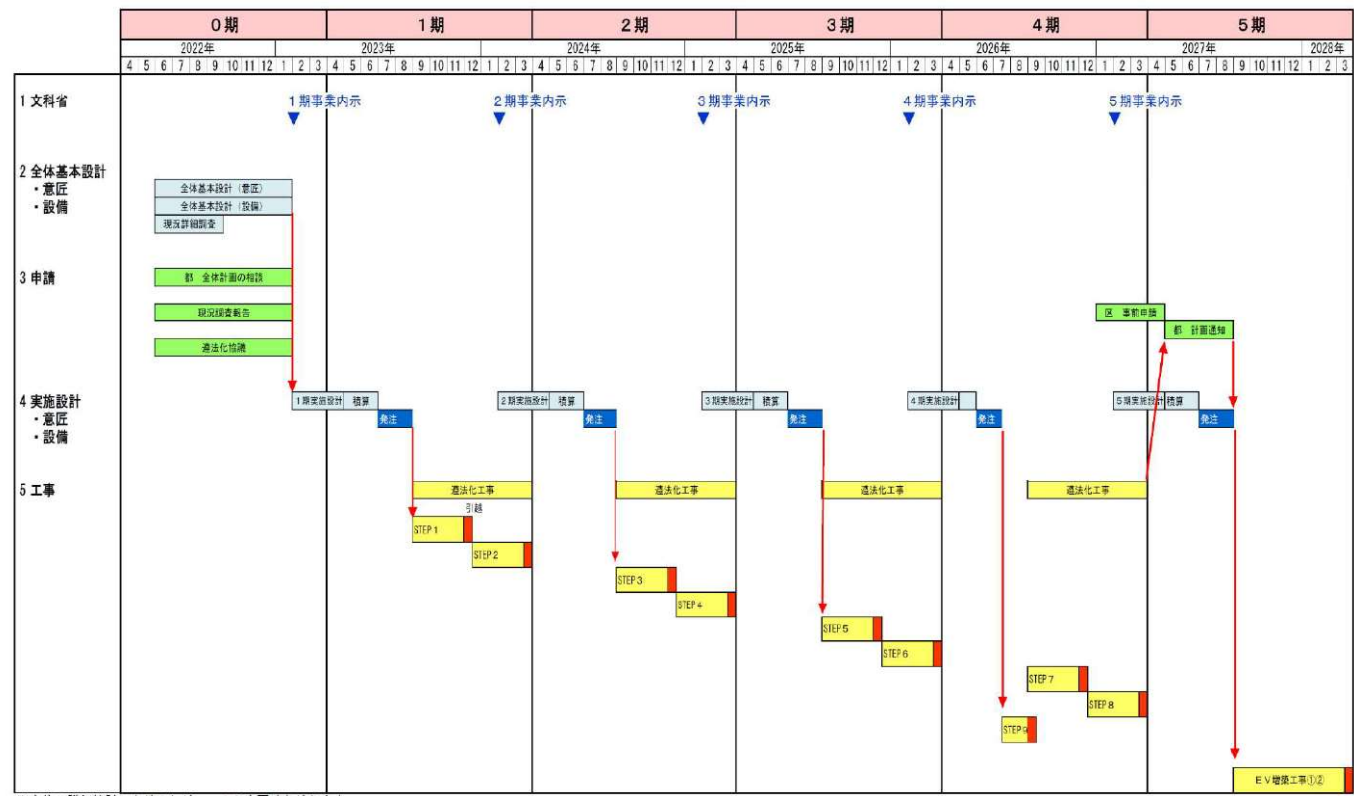
1 階 平面図

■ローリングスケジュール

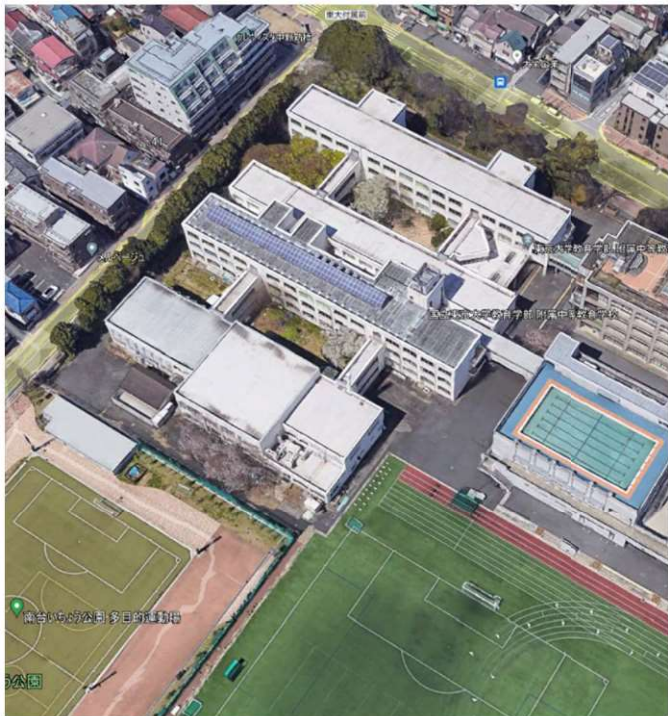
各ステップの工事は、設計～工事発注～撤去工事～改修工事の流れからなるが、これを各年度毎に完了することが求められている。文科省内示があった時点から設計をスタートし、翌年度末に工事を完成させるサイクルを考え、各工事には約4か月を見込むこととした。こうすると各年度毎には2ステップの工事が可能となり、9ステップを完了させるためには5か年を要することとなる。ただし本事業当初に「全体を見通した基本設計」を行っておくことは不可欠であるため、これを最初の年度に設定し、合計6か年の事業となる。エレベーター増築工事には計画通知が必要となるため、この工事は5期に設定した。

東京大学（中野）教育学部附属中等教育学校 校舎リノベーション 事業工程表（案）

220324



※今後の詳細検討によりスケジュールの変更はあります。



東京大学教育学部附属中等教育学校
新しい時代の学びの整備先導的開発事業
リノベーション協議会

F I N

みなさま、たいへんありがとうございました

